

New Edition Surfing 英語 I

文法の定着を目指した授業づくり

高知県立岡豊高等学校
 Shiraiishi Shizu 白石 志津
 Kashio Fumio 榎尾 文雄

1. はじめに

本校は全 25 クラス、高知県では最大規模の普通科県立高校です。学力伸張型、技能習得型、個性・特技重視型に分類される三つの柱に 9 コースを設置しており、英語に対する興味・関心の度合いは様々です。このように多様な生徒に対応できる教科書として、3 年前より *New Edition Surfing English Course I* を採用しています。

1 年次、2 年次と必修科目の英語 I・II があり、3 年次に学校設定科目の「英語課題研究」があります。この科目は、ALT とのチーム・ティーチングによる授業であり、英語によるプレゼンテーションやディベートを行うことで、楽しみながら自然と英語コミュニケーション能力や論理的思考能力などを身につけることを目標としています。1, 2 年次の表現活動が 3 年次の英語課題研究で活かされるようにカリキュラムを考えています。

本誌には昨年（67 号）に *Surfing I* を使用した授業例を書かせていただきました。今回は、*Surfing I* を使用した「英語 I」と、「英語課題研究」の 2 科目より、「不定詞の名詞的用法」に関する指導について報告をしたいと思います。

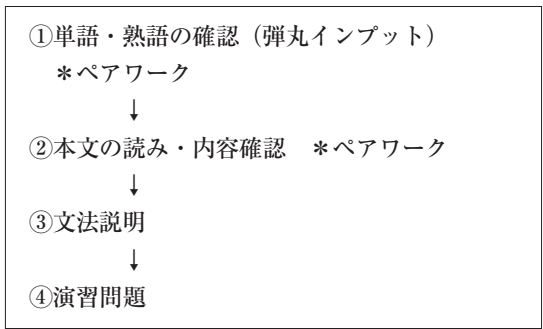
2. 中学英語から高校英語へ

高校 1 年生では、*Surfing I* とすばやく文法事項を確認できる問題集を使って、文法指導を行っています。まず、中学校で既習した事柄をしっかりと定着させることが重要だという観点から、「中学校で習った文法の復習⇒高校で新しく習う文法」へとシフトするようにしています。

3. 授業例 [1]：音読からの定着 (Surfing I Lesson 6 を例に)

文法指導となると「最初から例文を提示してその型を教える」「公式のように覚える」などのスタイルがありますが、まずは、音読から定着を図るようにしています。

授業の流れは次のようになっています。



①単語・熟語の確認 (弾丸インプット)

ワークシートを次ページのように作成します。左側に英文、右側に日本語を書けるようにしておきます。この場合、新出語(句)のみだけではなく、既習した単語の意味も復習の意味で確認することになっています。そうすることで、単語が定着していくと考えるからです。

②本文の内容理解

本文理解のゴールを「その本文を再現できること」に設定しています。その目標を達成するためにリーディング指導をまず行います。リスニングの際には、次のような指示を出します(今回のレッスンでは、導入として実際に野菜で楽器を生徒と作ることから始めました)。

Task 1 Find the answers and underline them.

本文を聞かせる前に、次の質問について聞き取るように指示を出します。本文を聞いているあいだは、解答しないことも合わせて指示しておきます(途中で解答していると、次の情報を聞き逃す可能性が大きい)。本文を聞き終わったあと、制限時間内で、解答に下線を引かせる活動を行います。

弾丸インプット (Lesson 6)

日本語	英語	日本語	英語

Step 1 英単語を日本語に直そう。

Step 2 用紙を半分に折り、ペアになって、単語の練習をし、1分間で読めた単語の数を書こう。

<i>English</i>	<i>Japanese</i>
Hamburg	
orchestra	
entertain	
sweet	
produce	

- Question 1: How did an orchestra entertain the audience?
 Question 2: What did the musicians play?
 Question 3: What did the musicians want to produce?

Task 4 Recover the sentences.

音読の後、information gap を用いて、その本文を復元していきます。まずは、それぞれが解答し、その後、解答した用紙で音読をし、パートナーが正解を確認します。

Task 2 Check the answers with a partner.

友達と解答を確認していきます。その後、教員が答え合わせをしていきます。

Task 3 Reading it aloud.

次のいずれかの音読を数回行います。

- ア. Chorus reading
- イ. Buzz reading
- ウ. Shadowing
- エ. Read and look up
- オ. Overlapping reading

この音読では、生徒にどれだけ読ませることができるかがポイントになります。制限時間を設け、その範囲内で読ませるようにすると、生徒たちは思ったよりも積極的に取り組むようになりました。

Student A

At a concert in Hamburg, an orchestra from Vienna () the audience with sweet music.

The musicians played () instruments. (以下略)

選択肢 entertained / special / ...

Student B

At a () in Hamburg, an orchestra from Vienna entertained the audience with () music.

The musicians played special (). (以下略)

選択肢 concert / instruments / sweet / ...

③文法指導

このパートでとりあげられている「to 不定詞の名詞的用法」について説明をします。この段階で生徒たちは、want to という構文が自然と頭に入っているので、例文を出すことによって、その意味をさっと確認していきます。

本文：They wanted to produce a new type of sound with common vegetables.

Task 1 「～したい」という例文を示す。

ここでは、本文で学習した表現のみをとりあげ、want to の表現を学習します。

- (1) I *want to* be a teacher.
- (2) I *want to* eat a chocolate.
- (3) I *want to* swim in the pool.

Task 2 「to + V」の違うパターンを示す。

want to 以外の不定詞の例文で示し、名詞的用法について考えさせます。ここで「to + 動詞の原形」には「名詞」の働きがあることを教えるようにします。

- (1) *To see* is to believe.
- (2) *To read* a book is interesting.

④演習問題

次にまとめとして、場面設定をして「to + 動詞

の原形」を使って英文を書かせます。その後ペアワークで活動し不定詞の定着を図ります（下図参照）。

今回は音読をすることにより、英文理解をしていくという授業展開を示しました。音読は何回も同じことを繰り返すと生徒が飽きてしまうので、時間を制限したり、shadowing をしたりと少し活動を変えるとより楽しい活動になると思います。さらにレベルを上げ、最後の内容理解が retelling という活動ができればよいのではと考えています。

4. 授業例 [2]：スピーキングでの定着（「英語課題研究」の活動を例に）

「英語課題研究」の授業では1、2年次で既習の言語材料を使い、実際にツールとしての英語の中で活用していきます。すべての活動において、「プラス・ワン・センテンス」の活動を用意することでより創造的な活動を行わせています。興味や関心を喚起する話題を選び、自分の意見を相手に伝えたいようになるように仕向けます。それによって、生徒の表現に創造性とバラエティが生まれるからです。

また、週2回の授業はALTとのチーム・ティーチングであるため、生徒が頻繁に英語で会話することが求められています。語学演習室としての機能はないものの、オーディオ機器、電子黒板、教材提示装置、インターネット環境のある英語科専用の部屋

To-不定詞をマスターしよう

- (1) 将来の夢を答える：What do you want to be in the future?
⇒ I want to be a _____
- (2) 趣味を答える：What is your hobby?
⇒ My hobbies are to _____
- (3) 得意なスポーツを答える：Which sport do you like?
⇒ To _____ is fun.



を使用できることもあり、生徒を飽きさせずに授業に参加させることが可能となっています。

授業例 [1] でとりあげた「不定詞の名詞的用法」を用いて、「英語課題研究」でコミュニケーション活動を行ったものを紹介します。この活動例は、MORAL DILEMMA というものからの抜粋です。この活動では、生徒は「究極の選択」をしなければなりません。従来のディベートのテーマ（法律の改正や校則についてなど）では、関心を示さない生徒も多くいました。しかし、この活動に変更してからは、生徒は自分の意見を言いたくてむずむずしている様子が見てとれます。前後、左右、斜めの生徒との意見交換のほか、全員を中央に集めておいて、教員の合図により同じ意見の生徒たちが集まり、ひとりずつ自分の意見を発表するバリエーションも生徒たちは楽しみにしています。

5. おわりに

高校1, 2年生の授業では、input → intake → output を効果的に行うにはどのようにすればよいかが課題であると思います。授業では、input として単語や教科書を見ずに本文の空所補充をしたり、本文理解を行ったり、文法プリントを使って新しい文法事項の説明をしています。また、intake としてキー・センテンスに下線を引かせる活動をしたり、

文法事項を使ったペア活動をしたり、基本英文を使って、read & write をしています。そして、output として基本表現（新出の文法事項）を使ったタスク活動を行っています。この活動では、生徒が自由に自分の意見を表現できるように心がけています。

英語学習の目標は、単に文法項目の習得や決まり文（固定文）の暗記だけにとどまるものではなく、自己表現を豊かにすることにあると思います。同時に、まとまりをもった固まりとして英文を書く（話す）ことや、「おち」を持ったウイットの効いた英文を書く（話す）ことにも少しずつ意識が向けられるようになることを期待しています。そのため、高校3年生の学校設定科目となっている「英語課題研究」の授業では、目標にできるだけ近づけるように多様な取り組みをしています。

教師から一方的にやられる活動ではなく、授業の中で生徒が声を出す機会を増やすことが大切だと思います。さらに、生徒自身の意志や判断が求められる部分を多くすることで、実践的なコミュニケーション能力の育成につながるのではないのでしょうか。そのためにも、相手の返答を聞いて、自然と同意したり反論したりする雰囲気が構築され、生徒同士の一体感が生まれることを想定して授業を行うようにしています。

Lesson 5: Moral Dilemma ②

<CASE 2> 大好きな最後のクッキー1枚。それなのに落としてしまいました。どうする？

You are eating your favorite kind of cookie. It is your last one and you drop it.

Do you want to eat it? Yes? No? It depends whether ...

 Write down your opinion:

